

【公開用資料】

2026年度 事業計画書

(2026年4月1日から2027年3月31日まで)

学校法人 明星学苑

目次

はじめに	2 ページ
I. 明星学苑の建学の精神とその実現	3 ページ
1. 明星学苑の建学の精神・教育方針・校訓・ビジョン	
2. 各設置校のビジョン・教育目標	
II. 第4期中期経営戦略の概要	5 ページ
1. 第4期中期経営戦略の3つの柱	
2. 2040年の学苑の姿、2027年度到達目標	
III. 2026年度の各部門の事業計画の概要	6 ページ
1. 明星大学・大学院	
2. 府中校（明星中学校・高等学校、明星小学校、明星幼稚園）	
3. キャンパス連携	
4. 学苑	

はじめに

学校法人明星学苑は、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を基盤として、教育研究活動の充実に取り組んできました。2023年の学苑創立100周年にあたり、次の100年を見据えた「自ら変革し続け、新たな時代、新たな世界を謳歌する人間性あふれる卒業生を輩出する学苑」というNext100学苑ビジョンを掲げました。

このビジョンの実現に向けて推進している第4期中期経営戦略（2023年度～2027年度）のもと、明星大学及び府中校では中期事業計画を策定し、経営方針に基づく単年度事業計画へと展開しています。

2026年度の事業計画は、第4期中期経営戦略の4年目にあたります。過去3年間の実行状況のモニタリングを通じ、すでに成果の出ている計画と引き続き課題の残る計画があることを把握しています。こうした状況を踏まえ、計画実行に必要な改善を加え、2027年度事業計画も含め、第4期中期経営戦略全体の達成を図ります。

明星大学においては、「学修成果の可視化による『学修者本位の教育』の実現」「新時代に向けた新たな教育プログラムの構築」「学修成果の情報発信強化」を重点事業として位置づけ、教育改革を推進します。同様に府中校では、「グローバル教育の実践」「ICT・AI・理数教育の実践」「探究教育の実践」を重点事業として位置づけ、注力して取り組みます。

各設置校（大学においては各学部等も）が到達目標を設定し、それぞれが特色ある教育をより一層充実させ、その成果を発信することにより、社会的認知の向上と競争力の強化を図ります。

学苑全体としては、ガバナンスの強化、施設・設備及び情報環境の整備、人事制度改革、リスクマネジメント等、教育研究活動を直接的・間接的に支える経営基盤の強化に継続して取り組みます。

1. 明星学苑の建学の精神とその実現

1. 明星学苑の建学の精神・教育方針・校訓・ビジョン

本学苑は、建学の精神「**和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する**」ことをもって、持続可能な社会づくりに寄与することをその使命とする。

■ 教育方針

1. 人格接触による手塩にかける教育
2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
3. 実践躬行の体験教育

■ 校訓

健康、真面目、努力

■ Next100 学苑ビジョン

自ら変革し続け、新たな時代、新たな世界を謳歌する人間性あふれる卒業生を輩出する学苑

2. 各設置校のビジョン・教育目標

明星大学のビジョン・教育目標

○ビジョン

- ・新たな時代を世界の人々と共創する大学
- ・多摩に根差し、地域に貢献する大学

○教育目標

生涯にわたり自律的に学び続け、みなと協働して幸福を生み出していく人の育成

明星中学校・高等学校のビジョン・教育目標

○ビジョン

- ・世界のトレンドに適応し続けるイノベーティブな学校
- ・人と自然を愛し、自他の価値を大切にする学校
- ・生徒と教師がともに成長し誇りを持てる学校

○教育目標

自分の未来をデザインし共創していける人の育成

明星小学校のビジョン・教育目標

○ビジョン

- ・自ら問いかけ、考え、行動し、自己表現できる人を育む学校
- ・知的好奇心と探究心、論理的思考力をもった人を育む学校
- ・共生・共創できる、心豊かな人を育む学校

○教育目標

「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた、輝きをもった人の育成

明星幼稚園のビジョン・教育目標

○ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく、友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつけれられる幼稚園

○教育目標

多様性を認め、未来を切りひらく子の育成

II. 第4期中期経営戦略の概要

1. 第4期中期経営戦略の3つの柱

Next100学苑ビジョン「自ら変革し続け、新たな時代、新たな世界を謳歌する人間性あふれる卒業生を輩出する学苑」の具現化と、各設置校の教育目標に基づく教育改革の着実な推進を柱とする教学の中期事業計画を支える基盤として、第4期中期経営戦略は次の3つを柱に策定する。

- ① 社会や外部環境の変化に迅速に対応する「自律的な変革」への挑戦と成長、
「働きがい改革」に向けた柔軟な制度の見直し
- ② 少子化を踏まえた持続可能な学苑の成長基盤と成長戦略
- ③ 人と組織、業務・事業の開発と成長を支える経営層のガバナンス改革

2. 2040年の学苑の姿、2027年度到達目標

Next100学苑ビジョン及び各設置校の教育目標の具現化に向け、2040年までの学苑経営における「2040年の学苑の姿」を次のとおり想定する。

そして、第4期中期経営戦略は、この「2040年の学苑の姿」を見据え、2027年（第4期中期経営戦略最終年）の到達目標を、「対話と共創」の精神と「多様な価値観」の共有を、経営と教職員協働のベースの思想に、「時代の変革」に迅速に応え、「自律的な変革」に挑戦し続ける人、組織、業務・事業開発へ転換する。

2040年の学苑の姿

- ・「対話と共創」、「多様な価値観の共有」を基盤として、学生・生徒たちの学ぶ喜びと、教職員の働きがいのある学苑
- ・多摩地域を確固たる存在基盤に、地域社会から「信頼」、「支持」され、ステークホルダーから「愛される」学苑・大学

2027年度到達目標

- ・「対話と共創」の精神と「多様な価値観」の共有を、経営と教職員協働のベースの思想に、「時代の変革」に迅速に応え、「自律的な変革」に挑戦し続ける人と組織、業務・事業への転換と持続的な成長基盤・成長戦略の構築

III. 2026年度の各部門の事業計画の概要

1. 明星大学・大学院

(1) 2026年度・2027年度 明星大学重点事業

- ① 学修成果の可視化による「学修者本位の教育」の実現
- ② 新時代に向けた新たな教育プログラムの構築
- ③ 学修成果の情報発信強化

(2) 明星大学重点事業の2026年度具体施策及び教育の質保証を支える継続的取組

① 学修成果の可視化による「学修者本位の教育」の実現

①-1：学生が成果や成長実感を得た教育研究活動の集約

学生が参画する教育研究活動や正課外活動において得られた学修成果、教育成果を含む学生の成長報告事例を集約し、学内外に公表する。これにより、学生が自らの成長を実感できるだけでなく、大学及び各学科・学環における教育力を示す。また、本取組は広報ツールとして活用できるだけでなく、内部質保証の根拠資料としても機能する。

①-2：大学全体での学修成果指標の設定と、学びの意欲向上のための各学科・学環への支援及び全学的な取組の企画実施

他大学と比較可能な全学的な指標を設定し、各学科・学環が目安として認識できる仕組みを構築する。指標の達成状況は、学内外に公表することを目指す。また、指標については全学的な達成状況にとどまらず、学科・学環ごとのモニタリングを行う。さらに、学生が成長を実感できる各部署の取り組みを支援するとともに、全学的な施策を実施する（例：GPAの厳格化、「授業改善アンケート」から「学びの振り返り」への移行、3ポリシーとカリキュラム改正等）。これらの取り組みにより、大学の教育力と学生の成長実感を直接評価及び間接評価の両面から示すことが可能となる。

①-3：学ぶことや成長することに意欲のある学生の声・ニーズへの対応

学生の学修成果や満足度の向上、後輩への推奨度を高めるため、当事者である学生の声を収集し、ニーズに即した施策を実施する。また、学修意欲はあるものの大学への適応に時間がかかる学生に対しては、入学直後から介入し、必要な支援を提供する。これらの取り組みにより、学生の学修活動への取り組み意欲が向上し、学修成果の向上が期待される。さらに、学修活動が軌道に乗ることで、2年次から3年次への進級率の向上も期待できる。

② 新時代に向けた新たな教育プログラムの構築

②-1：2027年度新カリキュラム「明星共通科目」導入に向けた準備

2027年度に導入予定の新カリキュラムでは、全学生が所属学部等の枠を超えて履修し、明星教育の基盤となる「明星共通科目」を新設する。「他者ととも未来を切り拓くため

の力を培う科目群」と定義し、明星大学の建学の精神に基づく教育理念を具現化する中核的な科目群として位置づける。また、各学位プログラムの専門科目との相乗効果を生み出すことで、本学独自の教育的特色を形成する。これにより、学生が本学で学ぶ意義を実感し、自己の成長を肯定的に捉えられるようになることが期待される。2026年度は、2027年度の導入開始に向けて、制度面及び運営面の準備・検討を進め、円滑な導入と質の高い教育実践に向けた基盤を構築する。

③ 学修成果の情報発信強化

③-1：IR データに基づくエビデンスを活用した情報発信媒体の制作

大学の教育プログラム等について、IR データに基づく情報発信を行う媒体を制作し、「教育の明星大学」をより強くブランディングする。具体的には、学生個人の成長の軌跡を IR データと連動させたコンテンツを主としたパンフレットを制作する。これにより、各学位プログラムがどのような目標のもとで教育を遂行し、どのような学修成果を挙げているかを発信する。2026年度は、理工系学部及び学環（理工学部・情報学部・建築学部・データサイエンス学環）を対象に制作し、学内外の評価や反応を踏まえ、2027年度以降の媒体の在り方を検討する。

※「2026年度・2027年度 明星大学重点事業」については、別途設定する成果指標に基づき、進捗状況及び実施結果をモニタリングする。

④ 教育の質保証とマネジメント体制の強化

④-1：教育指導補助者（TA・SA を含む）に対する研修実施体制の構築

教育の質向上を支える人材育成の一環として、教育指導補助者に対する体系的な研修実施体制を構築する。授業支援の質を高め、教育活動の円滑かつ効果的な実施につなげる。

④-2：各研究科から提示された活性化プランに基づく取組の点検と改善

各研究科の活性化プランに基づく取組状況を点検し、課題を整理するとともに、その結果を踏まえた組織的な改善方策を検討・推進する。

④-3：教育研究の質向上を支える教育・研究環境の整備

教育研究の質向上を支える基盤として、連携研究センター共用研究設備の充実を図る等、教育・研究環境の計画的な整備を進める。

④-4：学長・副学長・学部長によるマネジメント体制の強化と評価の実施

目標管理制度を通じて、学長・副学長・学部長に対する評価を実施し、大学運営におけるマネジメント体制の強化を図る。

(3) その他 2026 年度に注力する主な事業

① 学修定着のための取組と学生支援の推進

①-1：理工学部での再活性化

入学前から初年次にかけて段階的に基礎力を補完し、専門教育への円滑な移行を支援する体系的な教育プログラム「理工ブリッジプログラム」を構築する。本プログラムでは、入学前講座、数学導入科目、必修科目を有機的に接続させることで、入学後の学修定着を支援する。

①-2：IR データを活用した学修定着を促す早期支援

IR データを活用し、大学での自立的な学修活動への適応に支援を要する学生を入学後早期に把握し、所属学科・学環ごとに適切な支援を実施する。

①-3：学生の英語力向上を推進する施策

2027 年度より長期留学における単位認定制度を全学的に新規導入するにあたり、各学部等において単位認定が可能となる仕組みを検討のうえ、2026 年度中に制度の機関決定を行う。

①-4：通信教育課程における事業の見直し

学生の利便性向上を図るため、新たな教学システムを導入する。また、現在全国 47 都道府県 57 ヶ所で実施している科目終了試験のオンライン化に向けて、2026 年度中に試験的導入を行う。

② 大学の魅力発信の強化

②-1：公式ウェブサイトの更新

2027 年度の新カリキュラム導入に併せ、明星大学公式ウェブサイトの大規模リニューアルを実施する。今回のリニューアルでは、ウェブサイトの閲覧者の主たるターゲットを高校生として想定する。2026 年 3 月に初期認知獲得及び 2027 年度新カリキュラムをコンテンツとしたランディングページの制作、5 月に受験生向けサイトのリニューアル、11 月に大学公式ウェブサイトの全面リニューアルを予定している。

③ 大学運営体制の強化

③-1：補助金対応方針

2025 年度までに策定した補助金に係る基本方針に基づき、私立大学等経常費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金、私立学校施設整備費補助金及び科学研究費助成事業その他競争的研究費に関する業務を実施する。特に私立大学等経常費補助金については、近年の制度改革により、入学定員管理から収容定員管理に基づく不交付措置へと移行しているため、本学においてもより一層厳格な運用を行う。

(4) 多摩共創会議の提言に基づく事業

「明星学苑 多摩共創会議」は、多摩地域と学苑・大学の持続的な発展を目的として、地域の課題やニーズを踏まえ、産学公の知見を交差させながら議論を行う場として、2025年に設置された。2025年度は、学苑の設置校のうち明星大学を対象に議論を行い、提言を取りまとめた。この提言を踏まえ、地域になくってはならない大学を目指し、2026年度は以下の事業を推進する。

なお、学内外から高い評価を獲得している事業である、多摩地域の次世代ビジネスリーダー育成を目的とする「TAMA NEXT リーダープログラム」は、2026年度も継続して実施する。同様に、大学内の自然環境に着目し、里山としての活用と地域連携について考える「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」は、2025年度をもってプロジェクトが終了するが、これまでの成果に関する振り返りをプロジェクトオーナーである学長のもとで行い、今後の方針が出た段階で取組支援について積極的な検討を行う。

① 推進機能の構築

学内で実施している地域連携・地域共創事業の実態把握及び振り返りを行う仕組みを整備することを目的として、職員プロジェクトによる推進機能を構築する。地域連携・地域共創に係る各事業（プログラム）は、事業を担当する各部局が主体となって運営することとし、本推進機能は企画及び渉外に注力して取り組む。

② 多摩地域との連携・共創事業の基盤整備

多摩地域との連携・共創事業については、学内で実施している既存の取組を把握・可視化し、地域共創の目的に照らして成果を検証することにより棚卸しを行い、今後の展開に向けて基盤を整備する。その結果を踏まえ、地域及び本学にとって意義のある事業を継続的に実施、発展させていくため、モデル事業や必要な支援の在り方を検討する。

③ 渉外機能の充実

各事業（プログラム）における連携先企業・自治体・団体等を体系的に把握し、中長期的なパートナーシップの構築と実質的な協働を通じて、地域との信頼関係の形成を図る。また、持続的な地域連携・地域共創基盤を確保する観点から、これらの関係を基盤として行政等の支援制度の活用可能性について検討を進める。

2. 府中校

(1) 2026年度・2027年度 府中校重点事業

- ① グローバル教育の実践
- ② ICT・AI・理数教育の実践
- ③ 探究教育の実践

(2) 府中校重点事業の2026年度具体施策

① グローバル教育の実践

①-1：中学校・高等学校

幼小中高15カ年の一貫教育の中で、中高の段階を「実践力の育成」と位置づけ、世界と地域の課題を結びつけて考え、英語を含む複数言語・手段で発信・協働できる生徒を育成する。「明星で学べば、世界とつながり、未来を切りひらける」というグローバル教育ブランドを確立し、少子化時代においても「選ばれる学校」としての魅力を高める。これにより、生徒が多様な価値観と出会い、「違い」を尊重しながら協働する態度を身につけ、いじめ・差別・偏見の予防にもつながる。英語力に加え、課題設定力、情報収集力、批判的思考力、プレゼンテーション力等、大学入試やその先の生きる力に直結する能力を高めることができる。また、多摩地域や府中市との協働を通じて、「地域に根ざし世界とつながる明星」の姿を社会に示し、学苑全体のブランド価値向上につなげる。

①-2：小学校

1年生からネイティブの英語に触れる学習を継続することで、英語を身近に感じ、英語を使った表現を積極的に用いようとする児童が増加することが期待される。3年生で体験型英語学習施設「TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY)」を経験し、4年生では上海の小学校との交流を通じて、英語や中国語に触れる機会を提供する。さらに、4・5年生では諸外国のスタッフと英語で表現活動を行う体験型プログラム「ハートグローバル (HEART Global)」に参加し、ミュージカル作りを体験する。2年間にわたる活動により経験値を高めることで、より充実した成果を得ることができる。これらの活動により、児童は諸外国の文化や考え方、言語に興味を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成される。また、5年生では授業内で英検対策を実施し、受験を必須化することで、学年全体の英語力強化につなげていく。

①-3：幼稚園

正課の英語活動では、年間を通じてネイティブ講師との交流機会を確保し、2025年度からは日本人小学校英語教員による活動も開始している。両者の活動内容の類似を解消し、幼小連携を推進するため、2026年度は日本人英語教員による活動を「異文化理解」に重点を置いた内容へ転換する。これにより、園児のグローバルな視野がさらに広がることが期待される。

② ICT・AI・理数教育の実践

②-1：中学校・高等学校

理数教育を基盤に、生徒がデータや AI の仕組み・限界・倫理を理解し、適切かつ創造的に活用できる力を育成する。探究、グローバル教育と連動し、「AI を使って社会課題を解決しようとする主体的な学び」を中高 6 年間で体系的に展開する。これにより、生徒の数理的思考力・科学的探究力・問題解決力が向上し、理系やデータ関連分野への進路選択の幅が広がる。また、AI に「使われる」側ではなく、「使いこなし、批判的に評価する」側としての主体性、倫理観の育成を図る。さらに、探究・グローバル教育と組み合わせた STEAM/AI 探究モデルを明星ブランドとして確立し、学校選択における魅力向上につなげていく。

②-2：小学校

算数の学力二極化への対応として、3 年生以上において算数の授業時間数を 1 時間増設する。増設する授業は、教科書に準拠した内容にとどまらず、思考力を育み、算数が好きになる問題に取り組む時間とする。3 年生では、T・T（ティーム・ティーチング）による授業を実施し、基礎学力の定着を図る。また、算数好きを増やす取り組みとして、希望者を対象に「マス・キャンプ」を実施する。児童が学ぶ楽しさを実感し、自然な学力向上と授業の質向上の相乗効果が期待される。これらの取り組みを通じた成果は、教育の質向上を目的に、「賢さ」と「豊かさ」をテーマにした明星算数講座として対外的に発信していく。生活科においては、「低学年理科」単元を創設し、3 年生以降の学習に既習体験として生かせるカリキュラムの見直しを行う。さらに、2 年生から 1 人 1 台の端末を活用した ICT 教育を推進し、AI 教育につなげるとともに、情報リテラシー教育の強化も図っていく。

②-3：幼稚園

小学校教員と幼稚園教員が連携して理数活動の場を設定し、園児の自然や数量・図形に対する興味関心をより豊かなものとする。また、教員のデジタル活用スキルの向上を図り、写真・動画・音楽等の教材をより効果的かつ迅速に提供できるよう、日常の教育活動におけるデジタル機器の活用機会を拡充する。さらに、幼小教育センターを中心とした幼小連携事業を通じて、デジタル環境の整備及び普及を推進する。

③ 探究教育の実践

③-1：中学校・高等学校

生徒が自ら問いを立て、協働しながら課題を探究し、社会に向けて解決策を発信する主体的な学びを中高 6 年間で体系的に展開する。明星大学や地域社会との連携を通じて、実社会の課題とつながる探究を推進し、「社会・地域とつながる明星生」を育成する。これにより、課題発見・解決力、情報活用能力、思考力・判断力・表現力、協働性、メタ認知が向上し、大学進学後や社会人として必要な資質・能力の基盤が形成される。探究の成果が受験や進路選択（志望理由書、活動報告書、面接等）に生かされ、進路の質

と満足度の向上につながる。また、地域や社会との協働により学苑全体の教育力とブランド力向上にも寄与する。

③-2：小学校

低学年は「くぬぎの時間」で、磁石を使ったおもちゃや風で走る車作り、サツマイモの栽培等、多様な体験活動を実施する。中学年は、学級ごとにテーマを設定して探究の過程を経験し、高学年での活動につなげる。高学年は、「ゼミ探究」で興味・関心に基づくテーマを各自で設定し、教員が指導を行う。これにより、自分たちを取り巻く人や環境、情報、将来の職業等に目を向け、問題意識を持ち、継続的に追究する力を育成する。また、調査した内容を他者に伝えるためのまとめ方やプレゼンテーションの方法を身につけ、共通課題をもつ仲間と協働して問題を解決する力を養う。

③-3：幼稚園

「めばえの時間」で実施しているロケット教室、植物栽培、劇あそび等、園児の心を動かす「本物の体験活動」が定着し、普段の生活では経験できない貴重な学びの機会となっている。今後も継続的に実施することで、これらの体験活動が学齢に応じてどのような影響を及ぼすかを検証しつつ、探究心を育む効果的な体験の在り方を追究していく。

※「2026年度・2027年度 府中校重点事業」については、別途設定する成果指標に基づき、進捗状況及び実施結果をモニタリングする。

3. キャンパス連携

本学苑は、大学が立地する日野校と、中学校・高等学校、小学校、幼稚園を擁する府中校という2つのキャンパスを有しており、これは本学苑ならではの特徴であるとともに、大きな強みであると考えている。2つのキャンパスを有する強みを生かし、本学苑ならではの特色をより一層明確にするため、2026年度は、2028年度から始動する次期中期経営計画を見据え、日野校と府中校の連携の在り方について検討を開始する。

具体的には、多摩地域に2つのキャンパスを有する特性を踏まえ、日野キャンパス及び府中キャンパスに広がる自然環境を教育・研究・地域連携に活用可能な資源として捉える。そして、来るべき時代・社会の重要な観点「ネイチャーポジティブ」に基づき、本学苑において学ぶ者が自然の機能や生態系に関する認識を新たにし、社会資本「グリーンインフラ」の考え方を踏まえ、社会や産業をリードする人間として羽ばたくことを目指す。

こうした日野校と府中校の連携は、両校の交流にとどめることなく、大学の学びに生徒・児童・園児が早期に触れる機会を提供することを通じて、府中校における学びの質を高め、学力向上に資する取組として位置づける。

4. 学苑

本学苑では、第4期中期経営戦略の始動（2023年度）以降、理工系研究設備への投資、職員人事制度の改定、DX化を含む業務改革の推進等、教育研究活動を直接的・間接的に支える経営基盤の強化を推進してきた。同戦略4年目にあたる2026年度は、これまでの取組の成果を踏まえ、以下の事項に重点的に取り組むこととする。

(1) 学苑ガバナンス

① 「理事会の自己点検・評価」の仕組みを発展させ、理事長、業務執行理事及び学長の業績評価について、役員報酬（ただし学長については賞与分）への反映を行う。
② 2025年度に施行された「学校法人明星学苑内部統制システム整備の基本方針」に基づき、内部統制の実効性の維持・向上を図るため、特に下記について注力する。
②-1：経営に関する管理体制 経営に関する管理体制について、中学校・高等学校における教頭の役割、権限及び責務を明確化する。
②-2：リスク管理に関する体制 2025年度に選定した重要リスクについて、リスク対策の実施状況、効果及び課題等の視点から、モニタリングを実施する。
②-3：コンプライアンスに関する管理体制 教職員等の職務執行状況について、コンプライアンスの観点から、理事会にあらかじめ報告する内部監査計画に基づき、適切に監査を実施する。
②-4：内部統制システムの運用状況の確認 監事は、「学校法人明星学苑内部統制システム整備の基本方針」の運用状況について、必要に応じ監査を行う。

(2) 施設・設備整備

① 日野校1号館の2027年度以降の解体に向け、インフラ整備及び必要な設計等の事前準備を実施する。
② 日野校3号館（理工学部実験棟）について、2028年度以降の解体を目途に必要な調査を実施するとともに、機能移転に向けた準備を進める。
③ 府中校において、校内施設の在り方を含めたランドデザインの検討を行う。
④ ファシリティマネジメントの観点を導入し、従来の施設・設備の在り方を見直して経営上の最適化を図るため、今後の学生・生徒数の動向を踏まえつつ、既存施設を有効に活用して教育研究活動を継続的に遂行する。

(3) 情報環境整備

① 情報セキュリティ対策及び有事対応について、2025年度に施行された「学校法人明星学苑情報セキュリティ管理規程」に基づき、本学苑として確保すべき情報セキュリティ水準を踏まえて、必要な対策を実施する。なお、セキュリティ対策強化の一環として、ID統合管理システムを導入する。
--

② 教職員が業務で利用する仮想化基盤（VDI）について、クラウド環境への移行を実施し、安全性と安定性の高い業務環境を構築する。クラウド移行により、人員の増減に応じて柔軟かつ迅速にリソースを拡張または縮小できるスケーラブルな環境を実現する。

③ 日野校及び府中校において、それぞれの学校の特性を踏まえたうえで、教育活動に係る DX 及び生成 AI 等の活用の在り方について検討を行う。

(4) 人事施策

① 副学長や学部長等の役職者及び大学教員を対象に、果たすべき役割を実践できるようにするための研修を立案及び実施する。

(5) 資産管理

① 明星大学図書館に所蔵される約 7,000 点の貴重書について、専門的知見を有する教員等を含む体制のもと、その文化的価値を踏まえた維持・活用方針の策定に向けた検討を行う。

② 明星大学図書館に所蔵される図書について、既定の蔵書構成の見直し方針に基づき、最適化を進める。年間の除却スケジュール及び除却数の目標値を設定し、計画的に除却を実施することにより、図書館の環境整備を図る。

(6) リスクマネジメント

① 2025 年度に実施したリスクアセスメントを通じて選定した重要リスクについて、リスク対策の実施状況、効果及び課題等の視点からモニタリングを行う。また、これらのモニタリングを通じて、学苑全体のリスクアセスメントを実施する際の知見を蓄積する。

② 2025 年度に導入したリスク管理に関する基礎的研修ツールの内容をさらに高度化するとともに、管理職がリスク管理の重要性を認識し、適切な判断及び対処ができるようになることを目的とした研修ツールを開発し、研修を実施する。

③ 教職員が安心して教育研究活動に従事すること、学生・生徒・児童・園児、また保護者、保証人への安心安全な環境の提供を行うことを目的として、2025 年度に整備した「カスタマーハラスメントへの対応に関する方針」に基づき、各設置校における対応体制を策定・公表し、実施結果についてモニタリングと必要な改善を行う。